

特254

936

五年七月十日 於當館講堂

大禮  
紀念

金澤市立圖書館講演錄第一輯

3  
17

始



特 254

936



金澤市立圖書館講演錄第一輯



は し が き

當圖書館が社會の中心へ第一歩を踏んだ本年七月十日の開館を記念し、金澤在住の漢學者で且愛書家黒本植氏、並に現日本銀行金澤支店長高橋臻氏を特に煩して、講演をお願いいたしました。

これはその輯録でありまして、明治の佳節をトして、爰に講演録第一輯として刊行する次第であります。

昭和五年十一月

目次

一、金澤文化ノ沿革ト將來ノ覺悟……………自一頁至九頁

一、不景氣ニ直面シテ……………自一頁至二五頁

金澤文化ノ沿革ト將來ノ心得

黒本植氏

今日本市々立圖書館開館式ヲ舉行セラレ、後刻高橋様ノ現今ニ尤モ痛切ナル御講演アル筈其ノ前座トシテ愚老ニモ一場ノ講演ヲ頼マレシ故、聊カ愚見ヲ述ベテ諸君ノ清聽ヲ煩ハサントス。

抑モ本縣ニハ既ニ縣立圖書館アリ、今又大禮記念トシテ、市立ノ圖書館ヲ開設セラル、コノ圖書館ハ本市ノ設立ナレバ、本縣特色ノ外ニ一種本市ノ特色ナカルベカラズ、其故ハ本市ハ舊藩前田侯ノ治下ニシテ、風土ノ關係ト云、藩侯ノ教化ト云、種々ノ原因アリテ一種獨特ノ色彩ヲ帶ブルニ至リシ者ナレバ、コノ館中ニ藏セル、古書類ハ皆ソノ遺物ニシテ亦是一種獨特ノ色彩ヲ存セル事ハ論ヲ俟タザルベシ因テ諸君ニ於カセラレテモ、先以テ之ヲ腦底ニオキテ、尋常一様ノ看ヲナサズ、將來ニ於テモ温故知新ノ最モ缺乏ノ世ノ中ナレバ、コノ氣風ヲ養成シテ以テ文化發展ノ前途ニ邁進セラレタキ者ト存ズルナリ。

就テハソノ沿革ヨリアラマシ申サンニ、諸君御承知ノ如ク、前田家ハ菅公ノ末裔ト云傳ヘテ、

其故ニヤアラシ、歴世好學、利家卿ハ既ニ亂中ヨリ治ヲ圖リ、利長、利常、光高、綱紀、此四世ノ御方々ハ、殊ニ元和、饑饉ノ時ニ逢ハレタレハ、最モ獎學ニ力ヲ盡サレ、文物制度ヨリ工藝美術ニ至ルマデ、各ソノ道ヲ開キ、就中、綱紀即松雲公ハ、水戸ノ光圀卿トハ、叔姪ノ間柄ニテ、イヅレモ珍ラシキ好學ノ君子ニシテ、聚書ハ殆ンド競争ノ如ク、各使テ四方ニ派シテ書ヲ覓メラレシカドモ、水戸ハ三十五萬石、此方ハ百萬石ナレバ、天下ノ珍書奇籍ハ水戸ヨリモ金澤ニ多ク聚マリシ事ハ、言フマデモナシ、而モ治世七十九年、壽八十二歳ニシテ、享保八年ニ薨去、其後六世ハ皆公ノ血統誠ニ比類ナキメデタキ御方ナリ、是ヲ以テ祖孫ノ書ヲ聚メ儒ヲ聘シ、文化ヲ三州ニ敷カレタル、其名海内ニ響キ渡リ、祖來ノ政談ニ、ハヤクモ、土佐政治加賀文學ト稱セラレシ由見エタリト覺ユ、又天下ノ書府トモ金澤ヲ稱セシトノ事ナリ、其比支那明朝ハ寛文元年ニ亡テ清朝トナリシモ、書物ノ舶載ハ大カタ明版ナリシヲ、長崎ヘ奉行ヲ遣ハシテ御買上ニナル、其中ニ同ジ書ノ數部アルヲモ、皆併セテ金澤ヘ廻ハサレ、秘閣ニ收ムベキハ收メテ、其餘ハ八家ノ面々ヲ初メトシテ、諸大夫ノ家々ニ之ヲ求メシメラルソノ時コノ方ヨリ拙者ニモト申出デザレバ御氣ニ召サマリシト聞ク、是ハ唯舶載ノ書ノミニハ非ザルナリ、三都ノ出版物モミナシカリ、其書籍ノ流レテ三州民間ニ出ヅル數シラズ多カリ、故ニ當時書籍ノ少ナキ世ノ中ニテアリナガラ、吾藩ノミハ、内外ノ書籍ヲ藏セザル者ナク、ソノ餘風明治ノ中比マデモ殘リテ、骨董屋マデニモ明版ノ書ヲ

往々見タル事ナリ、今日ハ書籍トイヘバ、學校カ學者ノ家ニ非ザレバ、蓄藏セザル者ノ様ニ思ヘドモ、其比ハ學者、醫者ハ言フマデモナク、町家ニテモ別ケテ町年寄ナド務ムル者ハ、皆讀書家ノ藏書家ニシテ、其中ヨリ遠キハ島屋與三兵衛、鍋屋利兵衛、近キハ宮竹屋、中屋、福久屋、紙屋、淺野屋、八田屋ナドヨリ、學者モ出ヅレバ、詩人、文人、勤王家マデモ出デ、皆各本業ノ旁ニ文字ノ會ヲ開キ、文字ヲ以テ營業ヲ飾ルト云風ナレバ、四方ノ遊客雲ノ如ク、末終ニ金澤人トナレルモノ多ク、其文化ノ賑ヒハ、文化、文政ニ至テ極レリ、既ニ金澤人ハ一般ニ讀書慾ニ熱カリシカバ、四民ノ知識他藩ヨリモ超出シテ人皆鑒別力ニ富ミ、人ノ説ヲ聞テモ盲從ノ風ナク、今ヤウノ如キ模倣性ハ耻トシタル者、ソノ流風ハ廢藩置縣ノ後迄モ存シテ、トカク議論多クシテ一致セズ、一致セザルハ惡習ナレドモ、モトハ讀書ヨリ理智ヲ養來レルガ故ニ、一箇ノ見識立テ俗論ニ盲從セザルナリ、物ハ一得一失ニシテ、議論ノ多クシテ一致セザルハ弊ニシテ、讀書ノ知識ニ富テ俗論ニ盲從セザルハ利ナリ、故ニ明治ノ初年、難治ノ三縣トシテ我ガ石川ニ茨木、熊本ヲ數ヘテ知事ヲ任ズルニモ一廉ノ人物ヲ選ビシハ、三縣トモ名君ノ出ラレタル地ニシテ、歴世獎學ノ餘弊コ、ニ至リシナリ、餘弊ノ大ナルヲミテ其利ノ大ナル事ヲ知り、其利ノ大ナルヲミテ吾金澤文化ノ盛ナリシモ、工藝美術ノ發達セシモ、併セテ今日ノ金澤アラシメタル來因ヲモ知ルベキナリ、是今日迄ノ沿革ノアラマシナリ、何卒今後モ此ノ名聲ヲ墜サズ、益々文化産業ノ發展ヲ圖リ、以テ上

ハ昭和ノ聖澤、下ハ前田家累世ノ厚恩ニ報イザルベカラズ、是ニ就テハ何ハトモアレ、此圖書館ヲ愛シ、此圖書館ヲ利シ、仰テハ古賢ノ高風ニ接シ、俯シテハ今日ノ科學ヲ挹ミ、家庭ニ於テモ學校社會ニ於テモ讀書愛籍ノ美風ヲ一般ニ普及セシメタキモノナリ、然ラザレバ學校ヤ圖書館ノ獻立ガ、イカバカリ行届イテモ、其期望ヲ達セン事ハ覺束ナキ者ト存ズルナリ。

書籍ハ既ニ人間ノ智府ニシテ、又精神淨化ノ一要具ナリ、故ニ古ハアガリタル世ニハ、中産階級ノ家々ニモ、大抵五部ヤ十部ノ書ヲ備置テ、自分モ讀ミ、人ニモ見セテ、話ノ種トモシタルモノナリ、世ニ三物トテ、床ニハ掛物、違棚ヤ地袋ノ上ニハ箱物、卷物ヲ置キシハ、之ヲ教ヘシ者ニシテ、其人品ノ高カリシ事想フベシ、然ルニ今ヤ床ハヤ・モスレバ物置トナリ、違棚ナドノ上ハ卷煙草入位ヲオクニスギザルハ、何ト淺マシカラズヤ、又家庭ニ於テモ、昔ハカノ節用集大全、字林玉篇ナドノ魁大ナルヲ、一册位ハ必ズ針箱ノ傍ニオキテ、子供ニ文字ヲ問ハレテハ其中ヲ搜リ、鬩斗ノ結方ヲ知ラントテハ之ヲ披キ、歌ヲヨマントテハ百人首ノ處ヲミル、是レ開ケザル時ノ百科辭典ナリ、今ハカウヤウノ書ヲ備ヘタル家、果シテ幾軒カアル、又之ニ代ハル程ノ書ヲ備フルカトミレバ、多クハ母ナル人ノ膝下ニ婦人世界ヤウノモノ一二册アルノミ、故ニ手紙ヲカクニモ、文言ヲ知ラネバ、紙筆ヲ費ヤスバカリ、文字ヲ問ハレテモ間ニ合セノ答ヲスル故ニ、子供ノ知識確ナラズ、文化ノ日ニ進ムヤウニテアトシサリスル、人品ノ年々低下スル、是非モナキ次第ナ

リ、今日歐米人ノ風俗ヲミテモ、應接間ニハ必ズ百科全書ヤ、文學宗教ノ書ヲ初メ、陶器漆器ノアリトアラユル古今ノ珍物ヲ陳列シテ、賓主互ニ賞シテ、其智見ヲ發キ、或ハ話柄トスルハ、我が邦ノ昔ト東西符ヲ合ハスルニアラズヤ、席上ニ物ノ多キハ、ウルサキモノナレドモ、ソレサヘ人ノ爲メトアレバ厭ハズ、況シテ書籍バカリハ、亂書席ニ滿ツトモ、見苦シカラザルモノヲヤ、殊ニ之ヲ整頓シタルハ、言フモ更ナリ、別テモ書籍ノ角ホド意地ワロキ者ハナク、表紙モナク、角包モナケレバ一枚ノ折込ムモノナル事ハ人ノヨク知ル所ナリ、故ニ古人ハ表紙ヲツケザレバ必ズ角ニ紙ヲハルヲ常トセシ者ナリ、我が身上ノ事ヲ申スハ、コガマシケレドモ、愚老ナドハ貧家ニ生レシ者ニテ、亡父ヨリ譲ラレシ書トテハ、纔ニ消息往來ニ用文章ノ二册ナルノミ、之ヲ親讀リノ書トシテ今ニ大切ニヒメオケルナリ、カ、ル者ナレバ書ニ對スルノ念、ヨノ常ニアラズ、爾來泰平ノ聖恩ヲ蒙リ、前田家ノ餘澤ヲ受テ、色々ノ書籍ヲ買求メシモ、習性トナリテ、書ヲ愛スル事、食色ヨリモ甚ダシク、書ヲ披クニモ指ニ唾セズ、人ヨリ借テ返スニハ、其報トシテ、折込タルハ伸バシ、有益ノ書ヲト思ヘバ、表紙ヲツケテサヘ返シ、事モ往々アリ、是ハ愚老ノ癖ナレドモ、今日愚老年輩ノ人ハ大カタ然ラントゾ覺ユル、ソレハ昔ノ書ハ紙ト云、内容ト云、非常ニ骨折リシ者ナレバ自然書ヲ愛スルノ風ヲ成シ、寺子屋通ヒノ子供迄モ本挾ミニハサミ、然ラザレバ風呂敷ニツ、ム、槩シテ書ヲ大切ニ扱ヒシ者ニテ、落張アレバ他本ヲミテ補ヒ、蟲喰ヒアレバ裏

張ヲシテ子孫ニ傳フ、是ハ我が邦ノミニハアラズ、支那ノ司馬温公ヤ趙子昂、又ハ英國ノリチャ  
ード僧正ナドハ、皆書籍ノ大切ニスベキ事ヲ述ベテ、坐銘トシタル事、物ニ見エタリ、ワケテモ温  
公ナドノ書ニ於ケル、曾テ手ヲ觸レザリシ者ノ如シト云ヒ傳ヘタリ、然ルニ今ヤコノ美風モ地  
ヲ掃テ、本挾ハ薪トナリ、學校ノ生徒ニシテ、教科書ヲ携フル、一向ニ包マズ、内ニ入レバ人ノ母タ  
ル人サヘ、書ヲマタギ、新聞ヲフミテ、平然タル者アリ、是ニモ原因アリテ、今ノ書ハ紙ト云テモ、内  
容ト云テモ、概シテ射利ノ手ニ成リタルモノ多ケレバ、射利ノ書ヲ射利ノ眼ヲ以テ見ルホドニ、  
自然之ヲ龜末ニ扱フモ、無理ナラヌ事ナレドモ、今日ノ如キ薄俗ノ世ヲ矯正セシニハ、セメテモ  
古今東西ノ美風ヲ鑑ミ、愛籍ノ氣風ヲ養テ、以テ精神界ノ淨化ヲ圖ランモ、今後ノ心得カト存ズ  
ルナリ。

尙又終ニ臨ミテ更ニ申述ベタキハ、總ベテ世ノ中ニハ貧乏人ノ考ト物持ノ考トアリ、先ヅ貧  
乏人ノ考ト云フハ、日用品サヘアレバヨイト云ゴトク、書籍モ今日日進月歩ノ世ノ中ニ、古クサ  
キ書ナドハ何カセン、圖書館モ一ツアレバ澤山ヂヤト云フガ貧乏人ノ考ナリ、物持ノ考ニ至リ  
テハ、イハユル大家ノ庫中有ラザルハナシニテ、有ルガ上ニモ買求メテ、平生一向ニ用ナキ物モ  
蓄ヘオキテ、時アツテハ出シテ人ニモ見セテ、耳目ヲ悅バセ、人心ヲ樂マシムルト云風ニ、書籍  
モ古今ノ珍籍、東西ノ新書ヲ初テ、末ハ牛渡馬勃トテ、馬ノ糞牛ノ小便様ノモノデモ何カニ益ス

ルトミレバ、蓄ヘテツノ用ヲ待ツガ物持ノ考ナリ、物ハ三年立テバ役ニ立ツト諺ニ云ヘル如ク、  
カ、ル物ノ入りマハリテ、思ヒノ外ノ大用ヲナス事アルハ、人ノヨク知ル所ナリ、近比京都ヨリ、  
本阿彌光悅ガ樂燒師ノ吉左衛門ヲ使者トシテ、前田利長公ヲ通ジテ、大聖寺候ヘ御見廻トシテ  
燒物ヲ送リケルヲ物騒ノ世ノ中ナレバニヤ、宿々ヨリ傳馬ヲ出スヤウ、村役人ニ命ジタル、町長  
門守ト云人ノ手紙ヲソヘタル、ソノ宿々ノ名ガ分ラザリシニ、僅カ二錢三錢ノ昔ノ日本道中記  
ヲ見シニ、ソレニ一々見エテ、思掛モナキ、奥州白河ヨリ會津迄ノ宿名ナリシ由、大友子ノ話、シ  
テミルト、關ヶ原陣ノ前、會津征伐ノ時、利長公ヘ津川口ノ後詰ヲ德川ヨリ頼ミシ折、利治公代リ  
テ出陣滯在中ノ事ニハアルマジクヤ、其邊ノ事情ヲ取調アル上ニハ、好箇ノ史料タルベシ、コノ  
手紙今ハ樂ノ家ノ寶物ニシテ、ソノ由申遣ハシ、ニ大ニ喜ビシトノ事ナリ、是レ牛渡馬勃ノ類  
ナリ、又友人谷村子ノ手紙ニ、福田德三博士ノ著、更生經濟學ヲミシニ、佛國ノ經濟學者ケ―ネ氏  
ノ景氣循環ノ原理ヲ説クニ、支那ノ易理ヲ應用シタル由記述セリトアリ、誠ニ足下ヨリ鳥ノ立  
ツヲシラヌトハ此ノ事ナリ、易ナドハ、八卦占、合フ事モアリ、合ハヌ事モアリト、全ク賣ト者ノ言  
ノヤウニ思ヘル書ナルヲ、川向ノ人ハソレヲ咀嚼シ、ソレヲ演繹シテ、コノ世界ノ大不景ノ原理  
ヲ獅子吼スルヲ聞テハ、珍ラシカラヌ程珍ラシク思ハレテ、我が東洋學者ノ怠慢ヲウタ、痛感  
セザルヲ得ズ、トカク先ヲ逐ウテ手前ヲ顧ミズ、時ノハヤリニアコガレテ、アトノト忘レユク

現今ノ俗情、何事モ西洋人ノ躡却ヲ待テ始メテ種蒔ノ眞似ヲスルガ故ニ、イツモ人後ニ落テ、人先ニ立テズ、一國ノ貧乏モ知識ノ遅々タルモ、皆コ、ニ原スト思ハザルベカラズ、故ニ圖書館モアルガ上ニ増シテ、書籍モ、ヨキモノハ經費ノユルス限り買聚メテ、之ヲ愛シ之ヲ讀ミ、我ヨリ開拓シ、我ヨリ田植ヲ始メテ、東洋ニ生レタル者ハ、東洋ノ科學ヲ獨占シテ、西洋ノ科學ニ對抗シタキモノナリ、尙コノ上ニ徵古館ナドモ増設ノ機運ニ逢著スル時モアルベシト思ヘドモ、今ハ此圖書館ニテ僅ニソノ一斑ヲ補フ様ノ有様ナリ、要スルニ醫者ノ本草學ニ於ケル、印度哲學ノ佛典ニ於ケル、支那諸子百家ノ學理ニ於ケル、我邦ノ國史禮典ノ國體國實ニ於ケル、儒教ノ我が皇道ニ於ケル、其道々ノ學者ニ於テ各開明スル所アル様ナレドモ、其主トスル所ハ彼ニアリテ、我ニ在ラザルガ故ニ、寶庫ノ秘鑰ハ今ニ依然トシテ閉鎖セリ、之ヲ開キ之ヲ穿テ、沈潜默識以テ海ノ内外ニ紹介スルハ、我が金澤人ノ特色ナリ、現ニ我邦ノ文權ヲ握ル者ハワガ金澤人ニアラズヤ、武權ニ於テモ然リ、決シテ貧乏人ノ考ヲ以テ尻込スベキニアラズ、飽マデモ物持ノ考ヲ以テ突進スベキナリ、マシテ智識ハ貧富ニヨリテ高低ノ分ル、モノニアラズ、書籍ハ古今ニヨリテ新古ノ岐ル、者ニアラズ、サレバコノ點ヲヨクノ念頭ニオキテ、此ノ圖書館ヲ活用スト同時ニ何トゾ、皆様ノ家庭ヨリ始メテ學校社會ニ及ボスヤウ、御指導アラシム事ヲ望ム、因ミニ申ス、御藏書ニシテ、御拂ニナルニモ、反古ニセラル、ニモ、妄リニセズ、一往、役ニ立ツカ立タヌカ、此館ヘ

御相談アラバ、相當ノ値段ニテ、御讓ヲ願フモノモアルベク、窃カニ買出ノ書買ニウリ、或ハ屏風ノ下張ナドニシテ、アタラ郷土ノ恩物ヲ無ニスル事ハ、双方ノ損ナリ、マシテ書籍ハ天下ノ公共物ナレバ、之ヲ隱シテ人ニモ示サバ、ルヤウナ學者ハ、尻ノ穴ノ狭キ鼠小僧ニシテ、何十人居テモ役ニ立タヌ者ナリ、身自ラ讀マズンバ、人ニ貸シテ讀マスル事、一ハ書籍ノ蟲干ナリ、イカナル道具ニテモ、人ノ手ニフレル者ハ、其色澤ヲ失フガ如ク、書籍モ出入スル所ニ生命ハアル者ナリ、是双方ノ益ナリ、シカシ書籍ハ貸手モ借手モヨク忘ル、者ナレバ、ツトメテ早く讀ミテ早く返ヘスハ、讀書子ノ義務ナリ、是ラモ將來ノ心得カト存ズルナリ、ツマラヌ事マデ長々ト述ベテ、諸君ノ清聽ヲ讀シシ事ヲ謝ス。



## 不景氣ニ直面シテ

高橋 臻 氏

一、經濟智識普及ノ必要 本日當圖書館開館ニ當リマシテ此演壇ニ立チマスコトハ私ノ大ニ光榮トスルトコロデアリマス、承レバ當圖書館ハ經濟方面ノ圖書ノ蒐集ニ非常ニ力ヲ盡サレル由デアリマスガ是レハ誠ニ時代ノ趨勢ヲ洞察セラレタ賢明ナル方法デアルト信ジマス、御承知ノ通り經濟方面ノ智識ノ必要ナルコトハ今更申上ル迄モナイコトデアリマシテ、御互ニ日常ノ生活ハ勿論國民ノ一員トシテモ誠ニ必要デアリマス、殊ニ最近我國ハ經濟上ノ重大問題ガ續々ト發生致シマシテ、例ヘバ金ノ解禁並ニ之レガ善後策トカ、産業立國トカ、財政ノ緊縮トカ、公私經濟ノ節約トカ、國內産業ノ振興等ノ如ク最近ノ政治問題ハ殆ンド經濟問題デアルト云フテモ決シテ過言デハナイト云フ有様デアリマシテ、最早現代ニ於ケル政治ハ昔日ノ如ク自由民權等ノ抽象的問題ヨリ一轉シテ我々國民ノ實際生活ニ即シタル、具体的問題ヲ議論スルニ至リマシタ次第デアリマス、夫レ故ニ今後時事問題ヲ研究シ國民ノ一員トシテ生活スル上ニ於テ經濟上ノ智識ハ益々必要デアリマスカラ、御互ニ當圖書館ヲ充分ニ利用セラレテ

經濟常識ヲ高メテ以テ此國際的經濟戰爭ニ打勝ツ様努力カスベキデアルト信ジマス。

一、不景氣ノ世相 我國ハ本年一月金ノ解禁ヲ斷行シマシテヨリ未ダ漸ク六ヶ月ヲ經過セルニ過ギザルニ各方面共ニ不景氣ハ益々深刻ヲ加ヘ到ル處種々ノ問題ヲ起シテ居リマス、例ヘバ本年ノ春鬮ハ三四圓ノ安値デアツテ生糸モ六百圓臺ヲ唱ヘ、昨年ニ比較シマスレバ何レモ半値以下ニ慘落シ之レガ爲ニ養蠶家製糸家ハ非常ニ苦境ニ陥レルガ如キ、其他一般物價モ日ニ月ニ下落シテ行キ事業會社ハ營業收益ノ減少ニ依リ減資減配ヲ行ヒ株式市價ハ暴落シテ慘憺タル狀態ヲ示シ、更ニ事業會社ハ職工ヲ淘汰シ若クハ賃銀ノ引下ヲ斷行シテ各地ニ勞働爭議ヲ引キ起シ失業者ハ増加シテ失業救濟問題ハ刻下ノ大問題トナレル如キ、或ハ中小商工業者ハ勿論舊家又ハ資産家ト唱ヘラレタルモノガ失敗シテ一家四散シ終ニ路頭ニ迷フガ如キ、誠ニ悲慘ナル出來事ヲ目撃スル次第デアツテ、今ヤ經濟問題タルト同時ニ政治問題、社會問題トシテモ誠ニ重大問題トナルニ至リマシタ、從ツテ昨今ノ襲來セル不景氣ノ爲メニ社會ニ不安恐怖ノ念ヲ生ジ來リマシタ次第デ此不景氣ニ直面シテ

一、今後此不景氣ハ益々深刻トナリ行クヤ或ハ

一、最早ドン底ナルヤ

一、此不景氣ヲ如何ニシア我々ハ乗り切ルベキヤ

一、不景氣ハ如何ニセバ緩和スベキヤ

一、之ヲ打開シテ景氣ノ恢復ヲ計ルニハ如何ニスベキヤ

等ノ事柄ハ刻下ノ重大問題デアリマシテ御互ニ此問題ハ最モ慎重ニ研究シ之レガ對策ヲ講ズベキモノデアリマス。

一、不景氣ノ由來 現在ノ不景氣ノ原因トシテ擧グベキモノハ種々アリマスガ就中其近因トモ見ルベキハ

(一) 本年一月實行セル金ノ解禁ノ結果デアリマスガ之ニ關聯シテ其準備トシテ且其善後策トシテ行ヘル

(二) 政府ノ財政緊縮及公私經濟ノ節約ノ宣傳ト之レガ徹底セルコトデアリマスガ更ニ以上ノ國內原因ノ外ニ國外ノ原因トシテ

(三) 世界的不景氣殊ニ米國ノ昨秋株式暴落ニヨル不景氣ニ基因シテ我生絲羽二重ノ賣行不振ニ伴フテ相場ノ暴落セルコト

(四) 銀塊相場ノ暴落ニヨル對支輸出貿易ノ不振

(五) 印度濠洲ノ關稅引上ニヨル我輸出貿易ノ不振等此等國內及國外ノ諸事情ノ加重ニヨリ不景氣ガ深刻トナレル外ニ更ニ重大ナル原因ト目スベキハ

(六) 我國ニ於テハ大正九年ノ恐慌後ノ整理時期ニ於テ政府並ニ事業界ノ緊縮整理ノ不徹底ニシテ糊塗彌縫セルコト

(七) 大正十二年關東大震火災及昭和二年ノ金融恐慌ニヨル打擊深甚ニシテ其創痍ノ未ダ癒エザルコトモ亦原因デアリマス

蓋シ世界戰爭中及其直後ノ好景氣時代ニ於テ諸事業會社ノ亂設擴張アリ、經濟機關空前ノ大膨脹ヲ來タシ、從ツテ信用ハ異常ニ膨脹シ、物價亦非常ニ騰貴シマシタガ、此好景氣ノ反動トシテ大正九年春、財界ニ反動ガ襲來シマシテ我國ノミナラズ殆ンド凡テノ國ニ於テ經濟界ハ不景氣ニ沈淪シマシタ。

然ルニ此反動的ノ不景氣ニ對シテ歐米各國ハ信用通貨ノ膨脹政策(インフレーション)ヨリ、緊縮政策(デフレーション)ニ轉換シ、先ヅ金ノ解禁ヲ斷行シテ通貨ノ安定ヲ計リ、財政ノ緊縮、金融ノ疏通、勞資ノ協調、技術ノ改良、産業ノ合理化等ヲ目標トシテ、財政經濟ノ徹底的整理、緊縮ヲ計レル結果、米國ヲ始メ、英、佛、伊等歐洲各國ハ漸次ニ經濟界モ安定シ立直リマシタガ、他方ニ於テ大戰争ニヨル打擊深甚ニシテ、今尙不況ノ域ヲ脱スルヲ得ザル次第デアリマス。

之ニ反シテ我國ハ歐米各國ノ採用セル膨脹政策ヨリ、緊縮政策ヘノ轉換ヲ斷行スルノ勇氣ナク、此等規模ノ擴大セル經濟活動ノ設備ノ運用ニ際シテ、彌縫糊塗之レ事トシ、根本的整理ヲ怠リ、緊縮政策ヲ敢行セズ、姑息的手段ヲ弄シテ、事業會社ハ所謂蝸配當ヲ行ヒ、政府ハ借金政策ニヨリテ、其日ヲ過ゴシ行ク内ニ大正十三年ノ關東大震火災ヲ蒙リ、其損害ヲ更ニ加重セシモ尙根本的整理ヲ爲ス誠意ヲ缺如シ、爲替相場ハ暴落シ、物價ハ騰貴シ終ニ昭和二年ノ金融恐怖ヲ惹起シ、經濟界ノ行詰ニヨリ、漸ク朝野共ニ今後我財界ノ進ムベキ道ハ、緊縮政策ニヨリ、金解禁ノ斷行ニヨル局面ヲ打開、外ナキヲ自覺シ、本年一月漸ク金解禁ヲ斷行セル次第デアリマス。然ルニ金解禁ノ結果爲替相場ハ昂騰安定シ、我貨幣價值ハ騰貴ヲ來シタルヲ以テ、物價ハ外國ニ比シ非常ニ高價ニ在ル故、終ニ物價ノ急落ヲ來タシ、他方國內ハ財政緊縮、消費節約ニヨリ、商品ノ需要ナク、外國方面ハ世界的不況、銀塊暴落、關稅引上等ニヨリ、我輸出貿易ノ不振ヲ招來シ終ニ今日ノ不景氣ヲ來タセル次第デアリマス。

此ノ如ク考フルトキハ、現在ノ不景氣ハ結局我國朝野各方面ニ於テ大正九年財界反動直後ニ直ニ根本的徹底的ニ整理、緊縮ヲ斷行スベキヲ敢テセズシテ、彌縫糊塗ニヨリ、今日迄過ゴセル結果デアリマシテ、今日ニ於テハ、解禁ノ時期已ニ非常ニ後レテ居リ、我經濟界ハ解禁後ノ不景氣ノ重荷ニ苦痛ヲ感ジ、空前ノ不景氣時代ヲ現實セルモノデアアルコトガ明白デアリマス。

一、解禁ノ結果 然ラバ金解禁ノ結果如何ナル事柄トナレルヤヲ述ブレバ、先ヅ(1)正貨ノ流出アリ、(2)外國爲替相場ノ恢復安定ニヨリ、對内外貨幣價值ノ一致、(3)物價ノ低落ヲ來シテ居リマ

ス、先ヅ正貨ノ流出ニ就キテ申シマスレバ

甲、正貨ノ流出金ノ解禁後今日迄約二億二千萬圓ノ金貨ガ外國ニ流出致シマシタガ一部ニハ豫想外ノ巨額ノ正貨ノ積出ヲ見タリトスル向アリテ國民ノ心裡ニ不安脅威ノ念ヲ與ヘ之レガ爲メ人心ハ幾分萎靡退嬰ニ過ギタル傾向ナキニシモアラズデスガ然シ正貨ノ流出ヲ見テ只無暗ニ恐怖スルガ如キハ重金思想ニ捉ハレタルモノト云フベキデ誠ニ面白カラザル次第デアリマス、此際徒ニ恐怖シ萎縮スル如キコトアラバ之レコソ誠ニ憂慮スベキ次第デアリマス、正貨ノ流出ハ(イ)果シテ一部ノ考フル如ク左程憂慮スベキカ(ロ)金貨ノ流出ハ如何ナル原因ニヨリテ起レルヤ(ハ)今後ノ流出ノ狀況如何等ヲ此際充分ニ研究シ今後ノ流出ヲ成ル可ク少ナカラシムル様努力スルガ最モ必要デアリマス。

今日迄ノ正貨流出ノ原因トシテハ

- 一、海外銀行其他ガ爲替思惑資金ヲ引揚ル爲メ
  - 二、我爲替銀行其他ガ對外債務返済ノ爲メ
  - 三、我爲替銀行其他ガ我國ノ輸入貿易ノ決済資金調達ノ爲メ
  - 四、我信託會社保險會社等ガ海外ニ投資スル爲メ
- ニ正貨ヲ積出シタモノデアリマシテ丁度我國ハ輸入貿易ノ最盛期ニ向ヒ居リマシタ上ニ解

禁前ヨリ解禁當時ニ掛ケテ爲替銀行ガ可ナリ巨額ノ海外借入金ヲ爲シテ居ル等ノ事情ニヨリテ解禁直後一二ヶ月ノ間ニ巨額ノ正貨ノ積出ヲ見タル次第デアリマシテ、此程度ノ正貨流出ハ蓋シ已ヲ得ザル事柄デアリマシテ格別憂慮スル問題デアリマセヌ。

以上ノ諸原因ノ中(一)海外思惑資金ノ引揚ハ全部終了シ(三)ノ輸入貿易ハ其最盛期ヲ過ギ、スデニ輸出貿易ノ轉換期ニ向ヘル折柄トテ差當リ此等關係ヨリ少クトモ本年中ハ甚シキ正貨ノ流出ヲ見ルガ如キコトハアルマイト思ヒマス、只海外借入金ノ返済ハスデニ應急ノモノダケハ殆ンド正貨現送ニヨリ一巡致シマシタガ、尙相當額殘存シテ居リマス、尙今後海外投資モ英米金利ガ低落致シマシテ從前ニ比シ其運用上不利トナリマシタカラシテ此方面ヨリシテ正貨ノ流出ハ左シタル金額ニハ達セナイ模様デアリマス、然ラバ更ニ

(乙)正貨流出ノ影響ハ如何ト申シマスニ(イ)日本銀行ノ正貨準備ハ約一億九千八百萬圓減少シ、兌換券發行高約一億二千萬圓、民間預金二億二千萬圓ダケ解禁當時ニ比シテ現在減少ヲ來タシテ居リマス、更ニ(ロ)爲替相場ハ對米爲替四十九弗ニ安定シ昨年六月ニ比シ約五弗ニ昂騰シ(ハ)平均物價ハ本年五月末一五〇・六デアツテ昨年六月ニ比シ二五・七ダケ低落ヲ來シテ居リマス。

元來金解禁後ノ我財界ガ解禁前ト相違セル主要ナル點ハ解禁後ニ於テハ通貨ノ増減、物價ノ

騰落並ニ外國貿易ノ状態ガ凡テ金ノ自由流出入ニヨリテ自然的ニ調節セラルト云フ點デアリマス、解禁前ニハ貿易關係ニ於テ輸入ガ増加スレバ爲替相場ハ之ニ應ジテ下落シ、從テ物價ハ騰貴シ、輸入ハ益々増加シ、爲替相場ハ益々低下スルト云フ次第デアリマスカラ、爲替相場ノ低落ヲ防止スルニハ已テ得ズ外債ヲ起シテ爲替資金ヲ作り之ニヨリテ爲替相場ヲ維持スル外ニ別ニ方法ガナカツタノデ即チ人爲的政策ヲ講ゼナケレバナラナカツタ、之レガ我國解禁前ノ常態デアツタノデアリマス、然ルニ解禁後ノ今日ニ於テハ輸入ガ増加スレバ爲替相場ハ低落スルケレドモ或點以下即チ對米爲替デ云ヘバ四十九弗二分ノ一以下ニ下レバ、金貨ガ流出シ、金貨ガ流出スレバ通貨ガ收縮シ、金融ハ梗塞シ、物價ハ低落シ、之レニヨリテ輸入ヲ阻止スルト云フコト、ナリマス、又之レト反對ニ我物價ガ外國ノ夫レヨリ低キトキハ、我物資ハ海外ニ輸出セラル、ニ至リ爲替相場ハ次第ニ騰貴スルモ或點以上即チ對米爲替デ云ヘバ五十分四分之三以上ニ至レバ金貨ガ外國ヨリ我國ニ流入シ來リ、金貨ノ流入ハ通貨ノ膨脹ヲ來タシ金融ハ從テ緩漫トナリ、物價ハ益騰貴スルニ至リ終ニ輸出不振トナルノデアリマス、此ノ如ク金本位制度ノ下ニ於テハ金貨ト物價ト外國貿易トハ丁度三ツ巴ノ状態ヲ爲シテ互ニ自然的ニ調節作用ヲ爲シ、自然ノ療法ガ存在スルト云フコトガ、金本位制ノ長所デアリ、妙味デアリマス、我國ガ幾多ノ犠牲ヲ拂フテ金解禁ヲ斷行セル所以ハ要スルニ金解禁ハ從來ノ人爲政策

ヲ止メテ爲普通貨物價等ヲ凡テ自然ノ調節ニ委カセ、斯クシテ我經濟ヲ世界經濟化シ以テ從來ノ鎖國主義ヲ脱シテ列國ト協調ヲ保チ、我産業ヲ世界的ニ發展セシメントスルガ金解禁ノ主要ナル理由デアリマス。

夫レ故ニ今後我經濟ノ國際化ヲ計ル爲メニハ、我物價ヲ次第ニ低落セシメテ國際的平準迄ニ達シマスレバ、我正貨ノ流出ハ自然ニ止ムニ至ルノデアリマス、然シナガラ物價ノ低落ハ中々至難ノ事柄デアリマシテ物價下落ニ伴フテ不景氣益々深刻トナル故此點ガ我國一般ノ最も苦痛トスル所デアリマス。

一、不景氣ハ已ニ底堅時期 金解禁後スデニ六ヶ月ヲ經過シマシタガ此間ニ一般財界ハ不況益深刻トナツテ行キマスケレドモ、幸ニモ左シタル蹉跌モナク不況ノ裡ニモ先ヅ順調ニ推移シテ居リマス、殊ニ約十二年四月ノ長年月ノ間我財界ハ恰モ温室中ニ不自然ニ發達セルモノガ、金ノ解禁ニヨリ突如自然ノ荒キ天候ニ曝サレタル次第デアリマスカラ、財界各方面ニ於テ相當重大ナル影響ヲ蒙ルハ蓋シヤムヲ得ザル次第デアリマス。

之レガ爲メ一般ノ景況ハ頗ル不振不況ヲ免レズシテ重要商品並ニ株式市價ノ低落頗ル顯著ニシテ信用ハ極度ニ收縮シ、産業ハ萎靡シ、不況ハ深刻トナリマシタガ、然シ乍ラ是レ變態狀況ヨリ經濟界ノ常道ニ復歸スルノ途中ノ過渡期ニ經驗スベキ己ムヲ得ザル筋合ノモノデアツ

テ現在ノ不況ハ御互ニ暫ク辛抱シ我慢セナケレバナリマセヌ、目下ノ狀況ニテ段々ト推移シテ行キ次第ニ財界ノ底堅メヲ爲シテ行キ漸次ニ財界ノ恢復ト立直トヲ計ルノガ最モ妥當穩健ナル方法デハアリマスマイカ、此際強テ財界ノ好轉ヲ望ミ種々無理ナル人爲策ヲ講ジ急激ナル變化ヲ現在ノ財界ニ與フル如キハ、寧ロ幾多ノ危險ヲ包藏セルモノデアツテ、此不況ハ當分茲暫クハ持續スルモノデアルト覺悟シ、御互ニ之レガ對策ヲ講ゼナケレバナリマセヌ、急ニ好轉ハ期シ難ク又頗ル無理ナル注文デアリマス。

今ヤ各方面ノ情勢ヲ見マスルニ、幸ニ整理ノ機運ハ次第ニ濃厚トナリ、漸次財界底堅ノ域ニ進ミ居リ、一般物價ノ平準ハ尙未ダ相當低落ノ餘地ガアルト認メラレマスケレドモ、重要商品ノ多クハ已ニ國際的市價迄低落シテ居リマスシ、又各種株式市價ノ如キモ前途ノ成行ヲ見越シテ可ナリニ低落シテ居リマス、其結果今後尙多少ノ低落アリトスルモ、其値巾ハ餘程縮少セラレテ居リ從テ此方面ヨリ生ズル信用收縮ノ影響ハ現在迄ニスデニ大凡ソ現ハレテ居リマスカラ、今後人心ガ安定シ又生産費モ低下シ一般物價モ相當ノ處ニ低落スルニ至レバ、自然事業界ノ採算ノ基礎モ確實トナリ、又各種ノ整理モ進行スルニ伴レテ産業ノ根底ヲ益々培養スルニ至リマス、此ノ如ク我財界ハ各方面共其常道ニ復歸シツ、アル目下ハ、最モ重大時期ニ直面シ且漸次ニ安定セントシツ、アル際デアリマス。

一今後我財界ノ進ムベキ目標ハ大體ニ於テ

(イ)金本位制ノ維持ヲ主眼トシ之ヲ中心トシテ進マナケレバナライノデアツテ之レガ爲メニハ

(ロ)我國ノ物價ヲ國際的平準迄引下ルト同時ニ此新物價標準ヲ基礎トシテ

(ハ)我國内産業ノ振興ヲ計リ以テ國産品ノ使用獎勵ヲ爲シ一方ニ於テハ輸入貿易ヲ防壓スルト同時ニ他方ニ於テハ輸出貿易ヲ益々隆盛ナラシメテ以テ

(ニ)我海外貿易ノ均衡ヲ保タシメテ我金本位制度ヲ維持スルコトニ全力ヲ盡サナケレバナリマセヌ、夫レ故ニ我物價ヲ國際的平準迄引下ゲルコトガ刻下ノ急務デアリマス。

現在ノ不景氣ニ處スル各種ノ對策ガ唱ヘラレテ居リマス、例ヘバ(一)或ハ我財界ノ前途ヲ悲觀スルアリ(二)金ノ再輸出禁止ヲ主張スルアリ(三)新平價ノ採用(四)積極的不景氣打開策(五)緊縮政策ノ緩和、其ノ他名論卓説續出ノ有様デアリマスガ、然シ我經濟界今日ノ行詰トナレル原因ハ前述セル如ク大正九年以來朝野各方面ニ於テ一時的苦境逃レノ爲メニ局面ヲ彌縫糊塗セル人爲策ヲ講ジ、整理ヲ根本的徹底的ニ斷行セザル結果デアリマスカラ、今回ハ是非共財界ヲ根本的ニ整理シ之レガ立直ヲ爲スコトガ最モ必要デアリマス、夫レ故ニ現在ノ不況ニ對スル方法トシテハ、前記ノ目標ニ合致シ其目的ヲ達成セシムル手段ヲ取ラナケレバナライノデア

ツテ、甚ダ僭越デアリマスガ試ニ之ヲ列舉シテ見マスレバ

第一、人心ノ安定ヲ計ルコト 現在ノ人心ハ不安萎靡退嬰ニ過グルヲ以テ先ヅ人心ノ安定ヲ計リ、不安恐怖ノ念ヲ一掃セシムルコトハ最モ急務デアツテ、一時ハ株式市場ノ如キモ不安恐怖ノ念ニ襲ハレテ居リマシタ、此際先ヅ流言蜚言ヲ取締リ朝野協力ニ致シテ人心ノ安定ヲ計ルベキデアリマス。過般政府ガ保險並ニ銀行業者及財界有力者ヲ招致シ財界ノ實情ニ付キ懇談諒解ヲ求メタルガ如キ、目下ノ不安人氣一掃ニ相當効果アリシ様ニ思ヒマス。

第二、我物價ノ國際的標準迄ノ引下 我物價ヲ國際的標準迄引下ルコトハ最モ急務デアツテ目下ノ不安モ物價低落ノ果シテ奈邊ニ底止スルヤヲ知ラザルニ基因スト信ジマス、之レガ爲メニハ(一)生産費ノ引下ヲ計ルニアリマスガ、從ツテ(二)産業合理化ノ徹底ヲ期シ(三)能率増進ヲ計ル等ノ各種ノ方法ヲ講ズベキデアリマス、本年五月中ノ東京物價指數ハ一五一デアリ、倫敦一二三、紐育一二三ニ比較シマス、我物價ハ尙相當高イ様ニ思ハレマスガ、然カシ我重要商品ノ市價ハ已ニ大凡ソ國際的市價迄低落シテ居リマス、例ヘバ、生糸一〇〇、綿糸一二三、木材一四〇、洋鐵一二六、銅一三三、砂糖一二一ノ如キデアリマス、然レドモ生活必需品ノ物價ハ尙低落ノ餘地ガ多イ様ニ思ハレマス、例ヘバ米一七一、小麥一五七、石炭一八六ノ如キデアリマス、之レガ引下ハ中々困難ナル事柄デアリマスガ、然シ此物價殊ニ生活必需品ノ引下ハ最モ急務デアル

ト信ジマス。

第三、國內産業ノ振興ヲ計リ、國產品ノ使用獎勵、輸入防止、輸出獎勵以テ國際貸借ノ均衡ヲ計ルコト 現在内地産業界ハ不振不況ノドン底ニ苦悶シテ居リマスガ、然シ今後生産費ノ低減ヲ計リ、輸入舶來品ノ使用ヲ止メテ國內品ヲ以テ之ニ代ヘ以テ内地産業ノ振興ヲ計リ進ミテハ更ニ海外輸出貿易ノ隆盛ヲ計ラナケレバナリマセヌ、本年一月以降六月末迄ノ外國貿易ハ輸出七億三千二百萬圓、輸入九億五千五百萬圓、輸入超過二億二千三百萬圓デアリマシテ、之ヲ昨年同期ニ比較シマスルト輸出入額共約二割七八分ノ減少デアリ、入超過ハ五千九百萬圓ヲ減少シ、甚ダシク不振デアリマス、此下半年期ノ輸出超過ハ此際デアリマスカラ、餘リ左シタル金額ヲ期待スルコトハ無理デアリマス、然レドモ明年上半期ニ至ラバ更ニ輸入貿易資金調達ノ必要上相當額ノ正貨流出ヲ見ルガ如キコト、ナリマスレバ、我財界ハ更ニ面白カラザル結果ヲ來シマス、夫レ故ニ今後一方ニ於テ我物價ヲ國際的標準迄低下セシメ國內産業ノ振興ヲ計リ國產品ノ使用ヲ獎勵シ、以テ外國品ノ輸入ヲ防壓シ他方海外輸出ヲ隆盛ニシ以テ我國國際貿易ノ均衡ヲ保持スルコトガ最モ必要デアリマス。

第四事業ノ根本的整理ノ斷行 從來我國各方面ニ於テ一時的強韌糊塗ヲ事トシ根本的整理ノ斷行ヲ怠リ所謂蛸配當ヲ爲シ來レル結果、我國ハ列國ニ立チ後レノ氣味デアリマシテ、終ニ

今日ノ經濟國難ヲ招來セル次第デアリマス、故ニ諸事業會社ハ此際根本的徹底的ニ整理ヲ斷行シ産業合理化ノ實行ニヨリ新物價ノ平準ニテ採算ノ取レル様ニ新經營方針ヲ樹立シナケレバナリマセヌ。

第五、自力本位ノ漸進主義 現下ノ不況打開策トシテ急進積極政策ヲ主張スル向モアリマスガ、此際寧ろ各方面ノ整理ヲ根本的ニ爲シ、以テ我財界各方面ノ底堅メヲ爲シ行キ、自力本位ノ漸進主義ヲ以テ、徐ロニ我財界ノ恢復ヲ計ルノガ、最モ妥當穩健ナル方法デアリマシテ、之レガ爲メニハ、我國民ハ堅忍不拔朝野協力一致、不屈不撓ノ努力ヲ以テ此國難ヲ突破セナケレバナリマセヌ、從ツテ是迄ノ如ク國民ハイザトナレバ他力本位デ政府ニ救濟ヲ依頼スルガ如キ態度ヲ排斥シ、何處迄モ國民各自ガ自力本位デ漸次ニ恢復シテ行クト云フ自覺ト決心トヲ以テ進マナケレバナリマセン。

第六、我國ノ東洋ニ於ケル優越ナル地位 我國土狹少デアリ、加フルニ工業原料品貧弱デアリ人口ハ過剩ヲキタシ失業者日々増加スルヲ見テ、我國ノ前途ヲ大ニ悲觀スル者ガアリマスガ是レハ非常ニ誤レル考ヘ方デアリマス、我國ハ勿論國土ハ狹少デアリマスカラ、外國ヨリ工業原料品ヲ輸入シ更ニ之ニ加工精製シテ以テ之ヲ東洋及南洋方面ニ輸出スルニハ、最モ絶好ナル地位ヲ占メテ居リマス、又人口ノ多イノハ寧ろ之ヲ利用シテ今後益々工業ヲ盛大ニシテ過

剩ノ人員ヲ此方面ニ利用スベキデアリマシテ、人口ノ多キハ工業ヲ隆盛ナラシムルニ最モ有利ナル事柄デアリマス、世間ノ一部ニハ人口制限ヲ爲スベシト唱フル向モアリマスガ、之レニハ賛成スルコトハ出來マセヌ、我國ハ維新以來幾多ノ國難ニ遭遇シマシタガ、幸ニモ首尾ヨク之ニ打ち勝ち東洋ノ新進國トシテ其覇ヲ唱ヘテ居リマス、此誇ルベキ我國ノ歴史ヲ回顧シ、殊ニ今後ノ世界商業戰ハ此太平洋ノ此岸ニ於テ行ハル、ノデアリマシテ、此商業戰ノ中心地ニ在ル唯一ノ工業國トシテ七千萬ノ同胞ガ一團トナリテ協力一致シテ突進シマスレバ、遠ク隔リタル歐米諸國ト、此東洋ニ於テ商業的競爭ニ於テ打勝ツベキハ極メテ明白デアリマス、現ニ綿糸布ノ如キハ印度、地中海方面ヨリ更ニ本場ノ英本國ニ迄侵入セル如キ有様デアリマシテ吾々ハ此不景氣ニ直面シテ徒ニ前途ヲ悲觀スベキニアラズ、又樂觀スベキニアラズ、維新以來幾多ノ國難ヲ突破セル過去ヲ回顧シ、我大和民族ノ今日迄ノ發展ヲ思ハ、此際現代ノ我國民ハ大ニ覺悟シ、一大決心ヲ以テ上下協力一致シテ奮起スレバ、我經濟國難ヲ突破スルハ決シテ難事デナイト確ク信ジテ疑ハザル次第デアリマス。(二六)



昭和五年十月三十日印刷  
昭和五年十一月三日發行

編輯者

印刷者

印刷所

發行所

非賣品

小河次吉

金澤市中央多町  
四番丁十七ノ三

橋本彌三郎

金澤市大手町二八

橋本確文堂

金澤市大手町二八

大禮  
金澤市立圖書館

金澤市殿町六五ノ六  
電話一九六〇番

終